

岩手県感染症週報

令和6年第31週 (7月29日～8月4日)

岩手県感染症情報センター

第31週の概要

1 類感染症

・患者発生の報告はありませんでした。

2 類感染症

・結核の報告が3例ありました。そのうち2例は潜在性結核感染症でした。

3 類感染症

・腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例ありました。

4 類感染症

・患者発生の報告はありませんでした。

5 類感染症 (全数把握対象疾患)

- ・アメーバ赤痢の報告が1例ありました。
- ・侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例ありました。
- ・梅毒の報告が2例ありました。

5 類感染症 (定点把握対象疾患)

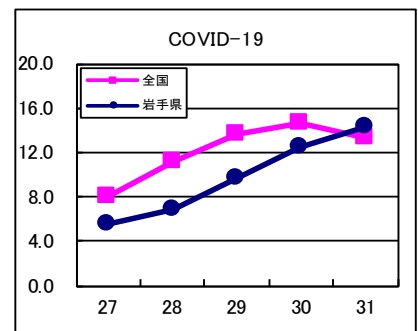
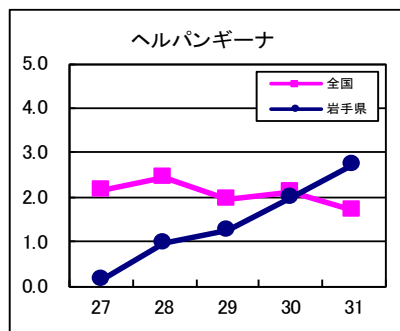
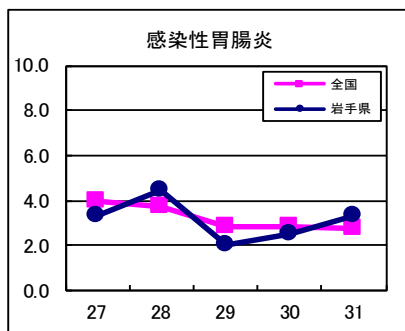
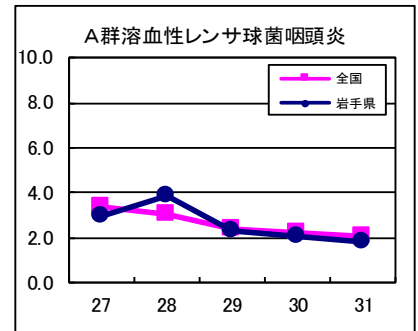
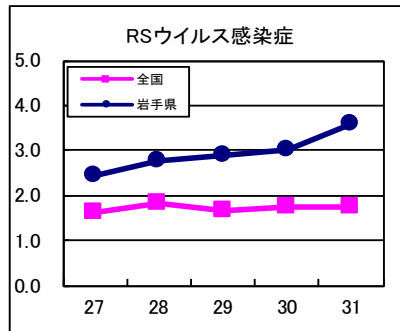
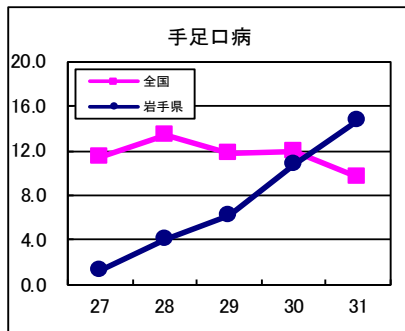
- ・新型コロナウイルス感染症は増加し、定点あたり患者数は14.27人となりました。県内のクラスターの発生は16件で、内訳は高齢者施設6件、医療施設5件、教育保育施設4件、福祉事業所1件でした。全国的に流行しているKP.3系統が県内でも確認されています。高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので注意が必要です。引き続き手洗い、咳エチケット等基本的な感染予防対策の確認をお願いします。
- ・手足口病は増加し、定点あたり患者数は14.63人となり、警報値(5人)を超えています。本症は、口内や手足に水疱性の発疹が現れるウイルス性感染症です。乳幼児を中心に夏季に流行します。稀に髄膜炎等を併発することがあり、高熱や嘔吐等がある場合には速やかに受診しましょう。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染です。予防には、手洗いやうがいのほか、患者との濃厚接触やタオルの共用を避けることが重要です。
- ・ヘルパンギーナは増加し、定点あたり患者数は2.73人となりました。本症は発熱とどの痛み、口内に現れる水疱性発疹を主症状とし、乳幼児を中心に夏季に流行するウイルス性の疾患です。予防には患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを励行することが重要です。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		27	28	29	30	31		
インフルエンザ	岩手県	0.03	0.17	0.21	0.17	0.19	→	☆
	全国	0.28	0.33	0.37	0.39	0.40		
RSウイルス感染症	岩手県	2.43	2.75	2.90	3.00	3.60	↗	☆
	全国	1.61	1.84	1.68	1.75	1.75		
咽頭結膜熱	岩手県	1.58	1.73	2.10	1.65	0.93	↘	☆
	全国	0.67	0.60	0.50	0.48	0.43		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.95	3.90	2.28	2.08	1.83	↘	☆
	全国	3.41	3.01	2.39	2.26	2.03		
感染性胃腸炎	岩手県	3.35	4.50	2.05	2.55	3.33	↗	☆
	全国	3.95	3.71	2.89	2.85	2.79		
水痘	岩手県	0.18	0.15	0.20	0.05	0.08	→	
	全国	0.23	0.20	0.17	0.18	0.16		
手足口病	岩手県	1.28	4.05	6.18	10.80	14.63	↗	☆☆☆
	全国	11.46	13.34	11.72	11.93	9.57		
伝染性紅斑	岩手県	0.23	0.20	0.05	0.15	0.20	→	☆
	全国	0.10	0.09	0.12	0.11	0.11		
突発性発疹	岩手県	0.48	0.35	0.58	0.28	0.53	↗	☆
	全国	0.30	0.29	0.26	0.26	0.27		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.15	0.98	1.23	1.98	2.73	↗	☆☆
	全国	2.15	2.42	1.95	2.11	1.70		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.13	0.13	0.08	0.05	0.03	→	
	全国	0.07	0.06	0.04	0.05	0.03		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.03	0.02	0.03	0.02		
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.29	0.50	0.36	0.43	→	☆
	全国	0.63	0.55	0.46	0.50	0.53		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	5.60	6.78	9.65	12.51	14.27	↗	☆
	全国	8.07	11.18	13.62	14.58	13.29		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.11	→	☆
	全国	0.02	0.03	0.03	0.03	0.04		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.26	0.47	0.21	0.16	0.26	→	☆
	全国	0.49	0.65	0.70	0.78	0.95		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	-	-	0.00	0.00	-		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	1	0	0	0	0		
	全国	-	-	-	-	-		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		27	28	29	30	31	累計	31	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	7 (2)	7 (2)	3 (2)	1 (1)	3 (2)	80 (35)	242	9023
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	30
	腸管出血性大腸菌感染症	15	2	7	1	3	51	131	1645
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	24
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	4
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	8	321
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	92
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	6
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	15
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	3
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	8
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	2	89
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	つつが虫病	0	0	0	0	0	3	0	102
	デング熱	0	0	0	0	0	0	5	122
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	10	206
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	1	4
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	1	1	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	28	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	18	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	1	2	
レジオネラ症	2	1	0	0	0	10	46	1253	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	3	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		27	28	29	30	31		31	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	1	3	9	326
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	1	0	0	0	2	2	132
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	1	0	2	0	9	30	1169
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	24
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	1	8	326
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	14
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	0	0	0	1	1	94
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	1	0	0	8	17	1304
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	3	12	595
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	25
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	2	10	406
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	36
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	5	23	1616
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	4	11	282
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	1	3	1	2	36	177	8310
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	1	123
	破傷風	0	0	0	0	0	1	0	47
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	1	2	76
	百日咳	0	0	0	1	0	7	55	901
	風しん	0	0	0	0	0	0	1	5
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	26
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	3

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています(図1)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり、高齢者を中心に多くなっているほか、妊産婦での報告もあります。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、今年の5月以降増加し、過去5年間の同時期と比べ最も多くなっています(図2)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は、今週までに8人となり過去5年間と比較し多い状況です。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

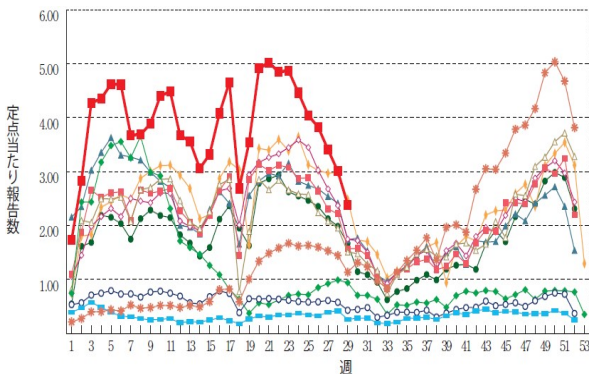


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2014年～2024年第29週) (国立感染症研究所HPより)

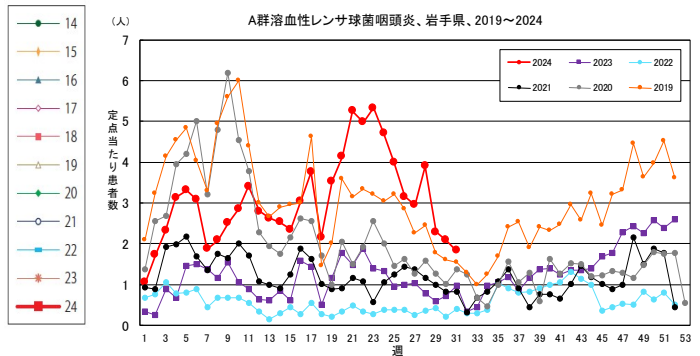


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2019年～2024年第31週)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型
溶血性レンサ球菌感染症 (続き)

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
- (2) 咳エチケット。
- (3) 溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
- (4) タオルの共用は行わない。
- (5) 傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

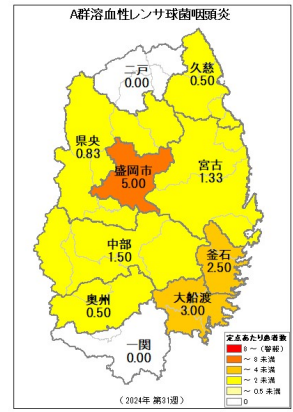


図3 第31週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症はRSウイルス(RSV)を病原体とする、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症です。潜伏期は4～6日程度です。主な感染経路は、患者の咳やくしゃみ等による飛沫感染と、ウイルスが付着した手指や物品等を介した接触感染があります。2歳までにはほぼ100%の人がRSVの初感染を受けますが、再感染によるRSウイルス感染症も認められています。初感染の場合、発熱、鼻汁等の上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎等の下気道症状が出現します。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSVによると言われています。また、早産の新生児や早産で出生後6カ月以内の乳児、月齢24カ月以下で免疫不全を伴う、あるいは血流異常を伴う先天性心疾患や肺の基礎疾患を有する乳幼児等では重症化しやすい傾向があります。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症では、肺炎の合併が認められることもあります。

全国の発生状況は図1のとおりです。本県の発生状況は、2023年では第26週にピークが認められており、2024年も第23週から増加しています(図2)。例年、秋から冬に発生が多い傾向がありましたが、近年では夏期に多くなっています。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

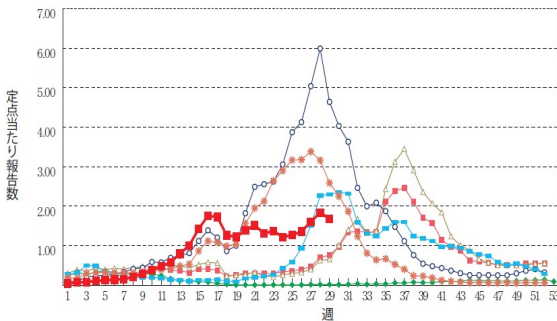


図1 全国のRSウイルス感染症の発生状況 (2018年～2024年第29週) (国立感染症研究所HPより)

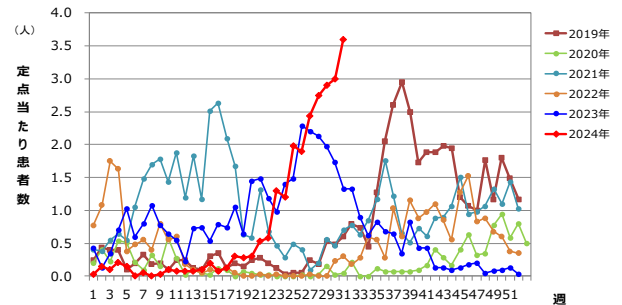


図2 岩手県のRSウイルス感染症の発生状況 (2019年～2024年第31週)

RSウイルス感染症においては、家族内にハイリスク者(乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者)が存在する場合、罹患により重症となる可能性があるため、飛沫感染や接触感染に対する適切な感染予防策を講じることが重要です。飛沫感染対策としてマスク着用(乳幼児以外)や咳エチケット、接触感染対策としては子どもが日常的に触れるおもちゃ等の消毒や手洗い等の手指衛生が重要です。

【参考】

IDWR 2023年第28号<注目すべき感染症> ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrc/12194-idwrc-2328.html>

感染症発生動向調査からみる2018年～2021年の我が国のRSウイルス感染症の状況 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rs-virus-m/rs-virus-idwrs/11487-rsv-20220916.html>

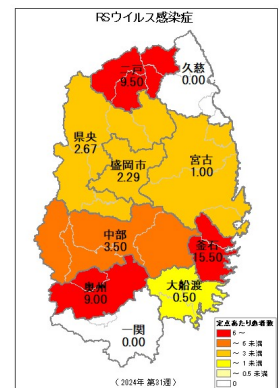


図3 第31週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

手足口病とヘルパンギーナ

手足口病は、口腔粘膜及び手や足等に現れる水疱性の発疹を主症状とする急性ウイルス性感染症で、コクサッキーA16 (CA16)、コクサッキーA6 (CA6)、エンテロウイルス71 (EV71) 等のエンテロウイルスが原因ウイルスです。

本疾患は4歳位までの幼児を中心に夏季に流行がみられますが、学童でも流行がみられることがあります。流行のピークは夏季ですが、秋から冬にかけても多少の発生がみられることがあります(図1及び2)。

人から人への感染は、主に咽頭から排泄されるウイルスによる飛沫感染で起こりますが、便中に排泄されたウイルスによる経口感染や水疱内容物からの感染等もあります。発病すると、その病因ウイルスに対しての免疫は成立しますが、別のウイルスに対しては免疫は成立しないため、再発することがあります。

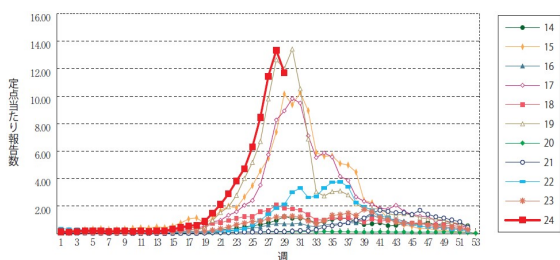


図1 全国の手足口病の発生状況 (2014年～2024年第29週)
(国立感染症研究所HPより)

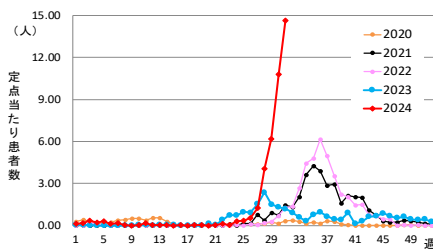


図2 岩手県の手足口病の発生状況
(2020年～2024年第31週)

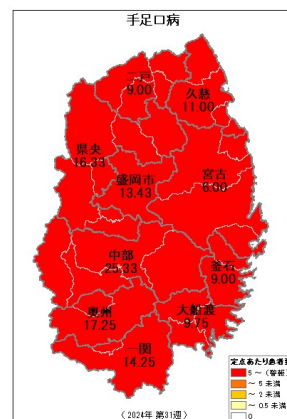


図3 第31週の保健所管内別の状況
※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

潜伏期間は3～5日で、口腔粘膜、手掌、足底や足背等の四肢末端等に2～3mmの水疱性発疹が出現します。軽度の発熱がみられる場合があります、38℃以下であることがほとんどです。乳幼児では口内の発疹により水分を摂取しにくくなることがあるので水分不足にならないようにすることが重要です。まれに幼児を中心に髄膜炎や脳炎等の中枢神経系合併症を起こすこともあります。

今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。手足口病の予防方法は、有症者の接触予防策及び飛沫予防策、手洗いが重要であり、特に有症時だけでなく回復後も排便後の手洗いを徹底してください。

【参考】 手足口病とは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>

ヘルパンギーナは、いわゆる夏風邪の代表的な疾患です。主な症状は38℃以上の突然の発熱とどの痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。痛みのため食欲が落ち、乳児の場合はミルクを飲むのを嫌がり、脱水症状を起こしやすくなります。まれに重症化し、髄膜炎や急性心筋炎等を併発する場合がありますので、発熱以外に頭痛や嘔吐等の症状が現れていないか注意が必要です。

全国ヘルパンギーナの発生状況は、例年5月頃から増加し始め7月頃にかけてピークを迎えます(図4)。一方、県内のヘルパンギーナの報告数は、全国より遅れて増加し始め、同様の流行形態をとることが多いようです(図5及び6)。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図6のとおりです。

感染経路、予防方法は手足口病と同様です。

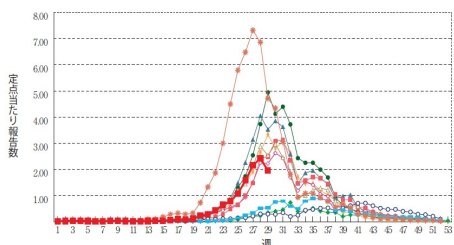


図4 全国のヘルパンギーナの発生状況
(2014年～2024年第29週)
(国立感染症研究所HPより)

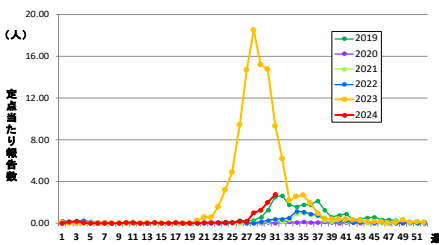


図5 岩手県のヘルパンギーナの発生状況
(2019年～2024年第31週)

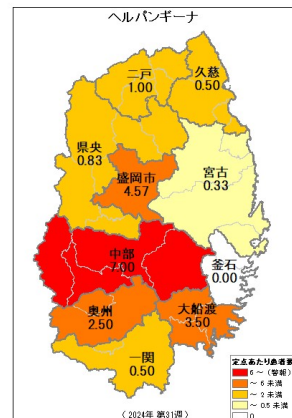


図6 第31週の保健所管内別の状況
※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

【参考】 ・ヘルパンギーナとは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2024年2月から7月25日までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2024年第31週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。定点当たり患者数は増加の傾向にあり、国内で流行しているKP.3系統が県内でも確認されています。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

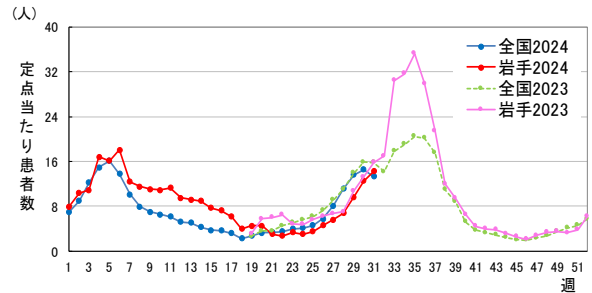


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

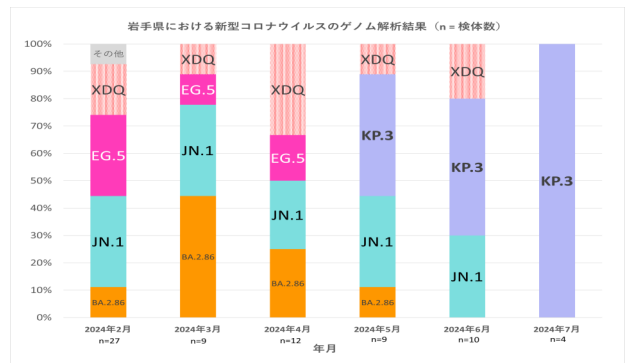


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果 (2024年2月～7月)



<<岩手県の電話相談窓口>>

県民医療相談センター 受付時間 平日9時から16時
 TEL : 019-629-9620 FAX : 019-626-0837
 いわて発熱等相談センター 受付時間 平日夜間16時から翌朝9時
 及び休日、年末年始
 TEL : 0570-059-333 FAX : 050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/1052939.html>

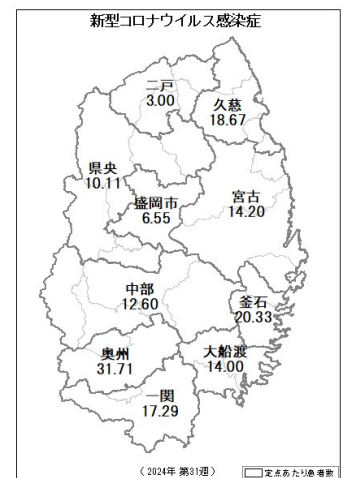


図3 第31週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本情報(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

- 新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
- 新型コロナウイルス (2019-nCoV)関連情報について－国立感染症研究所－
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>
- 岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html>

集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年8月7日発表分)

- ・岩手県 13件
- ・盛岡市 3件

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・奥州保健所管内の教育保育施設（園児110名、職員48名）
7月27日(土)から7月31日(水)にかけて、園児18名、職員4名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者2名からノロウイルスを検出



病原体検出情報

- ・感染性胃腸炎の患者の便からアデノウイルス2型を1件検出しました。
- ・手足口病の患者の咽頭ぬぐい液からコクサッキーウイルスA6を3件検出しました。

医療機関からの情報

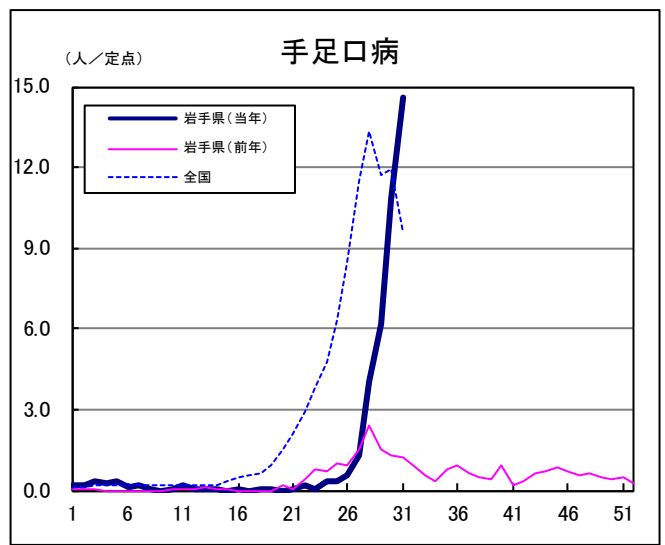
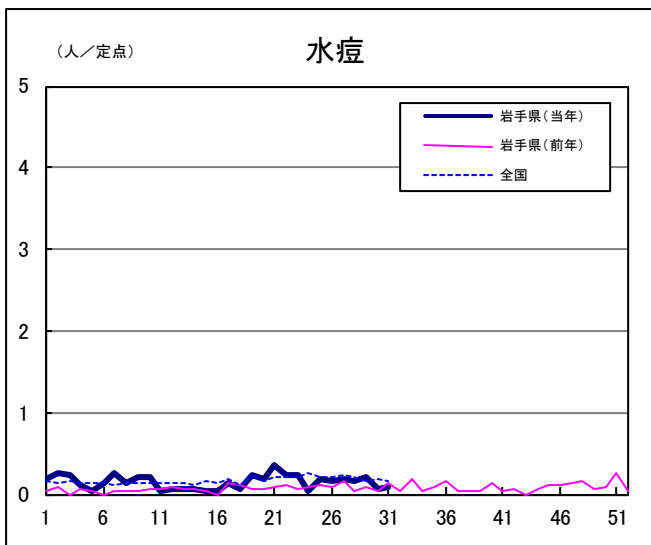
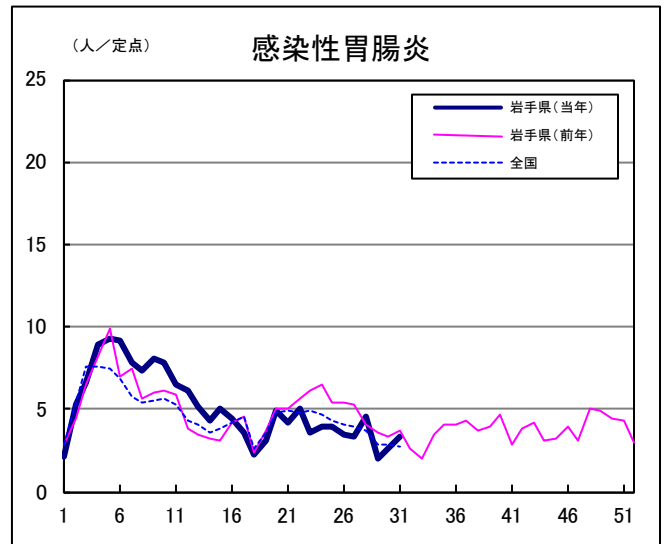
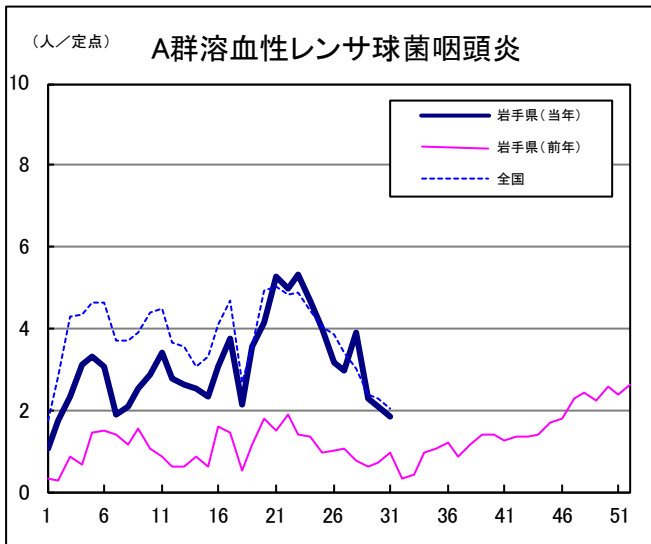
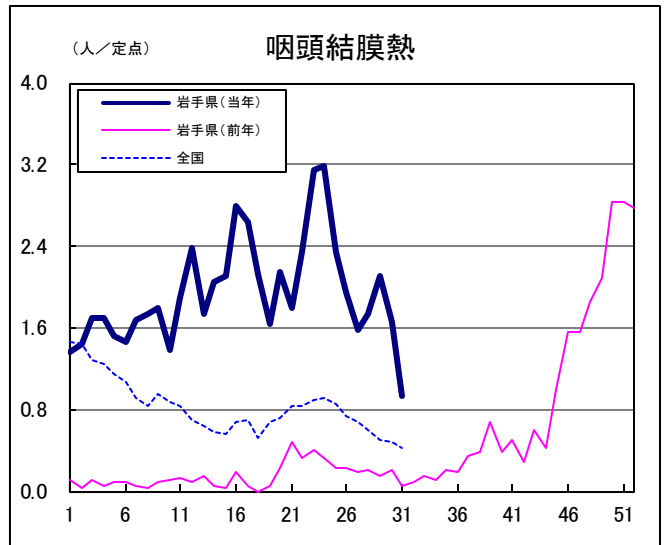
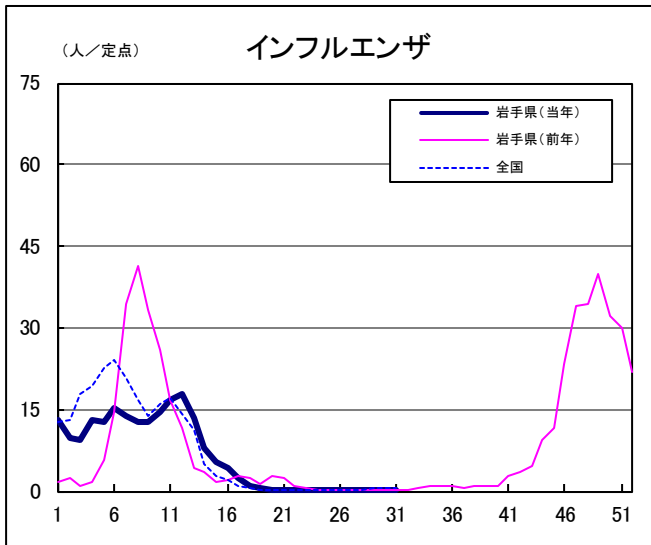
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

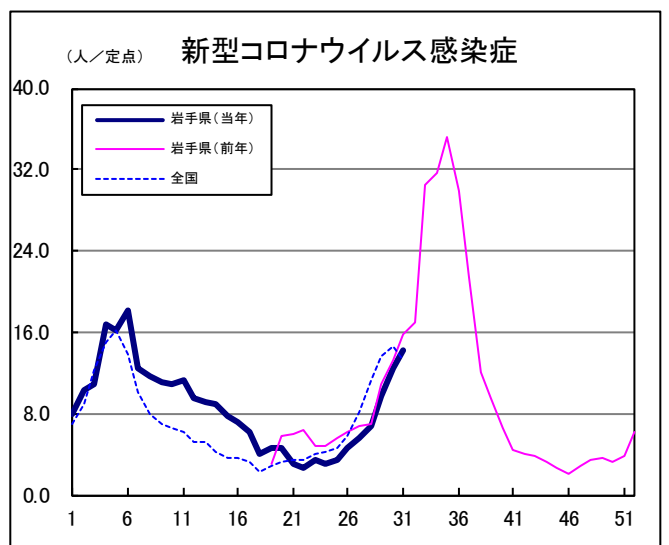
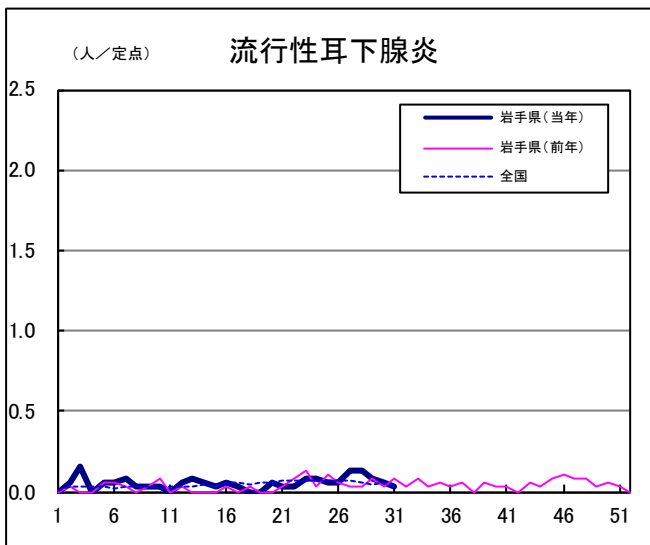
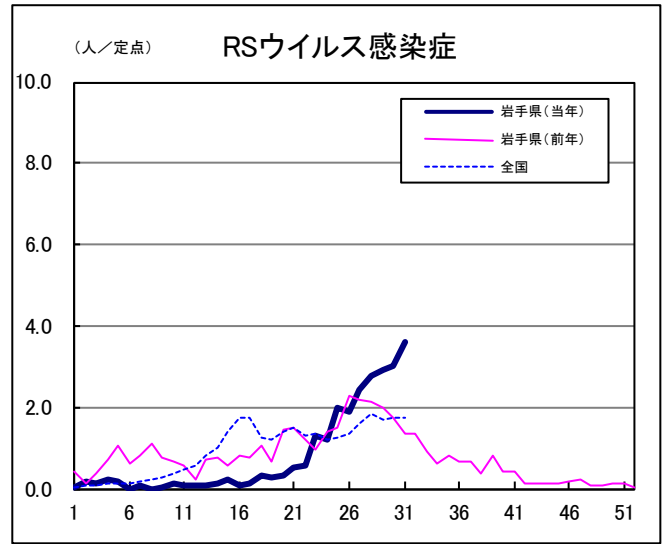
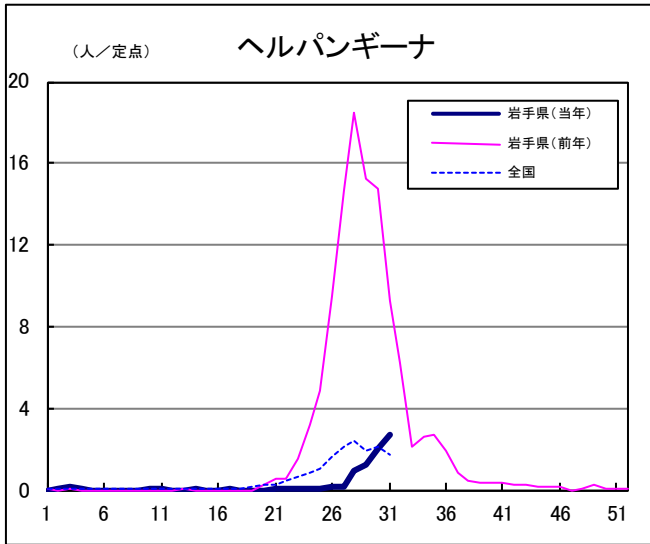
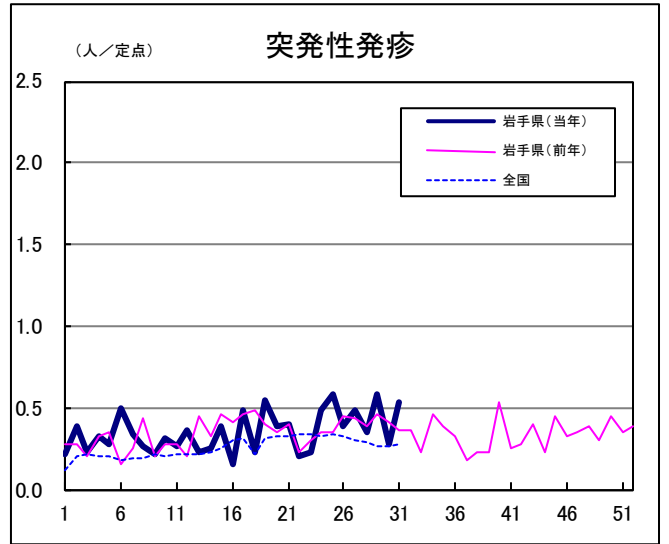
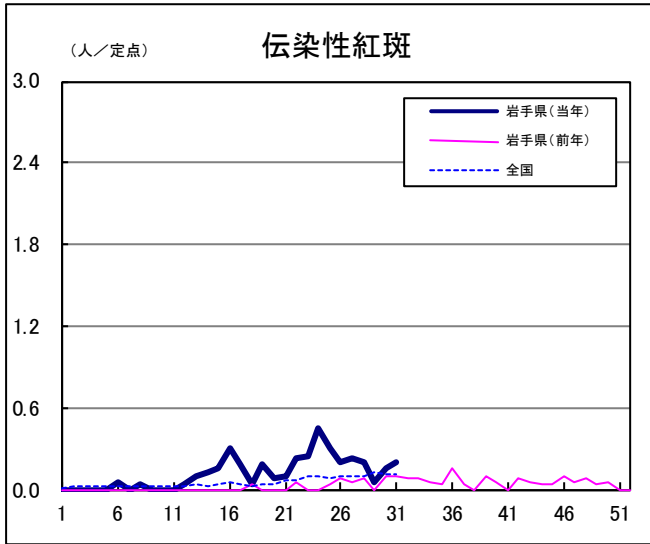
Q & A

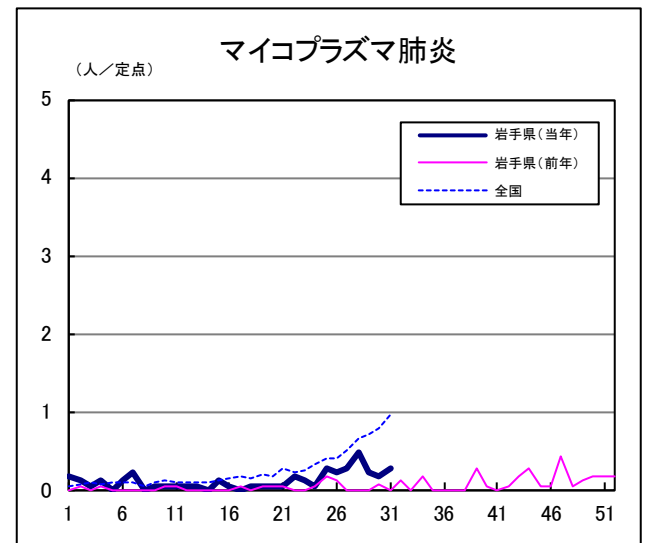
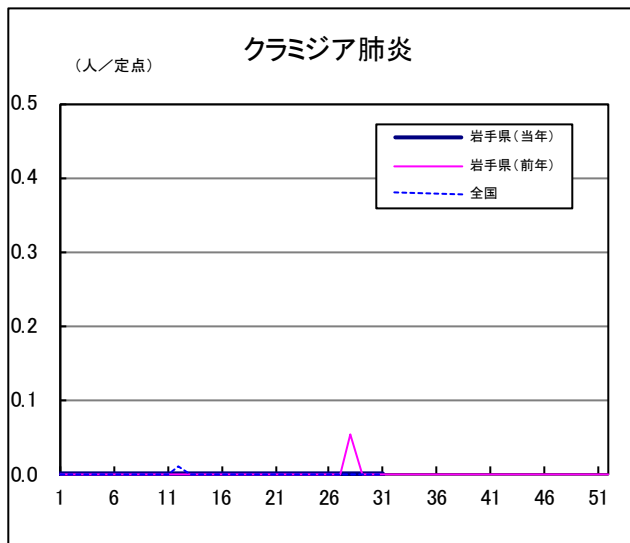
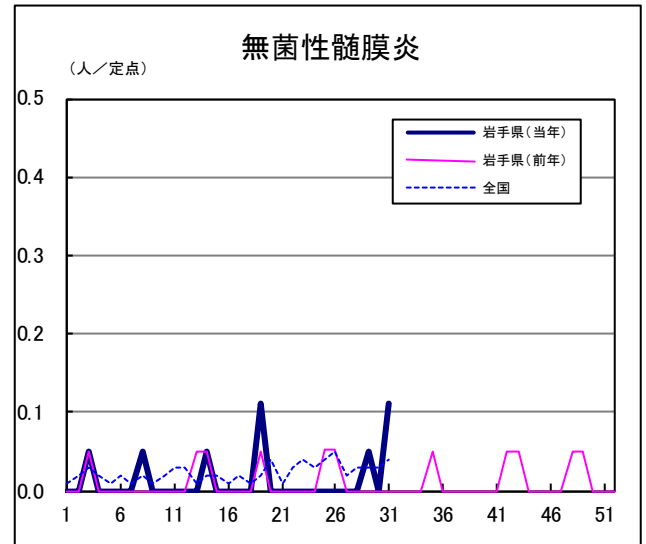
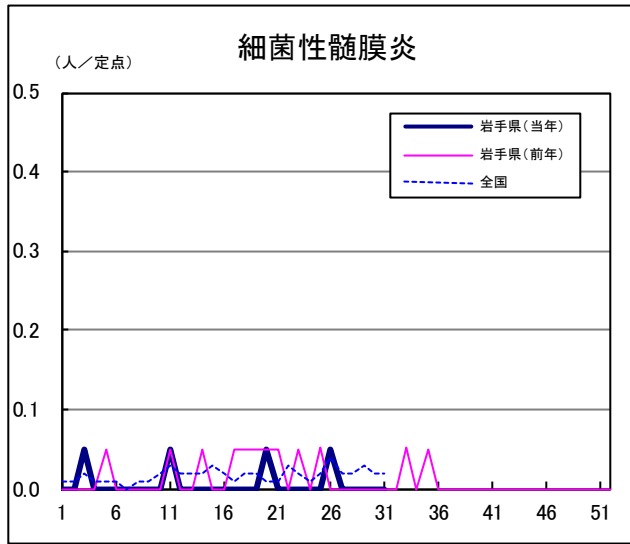
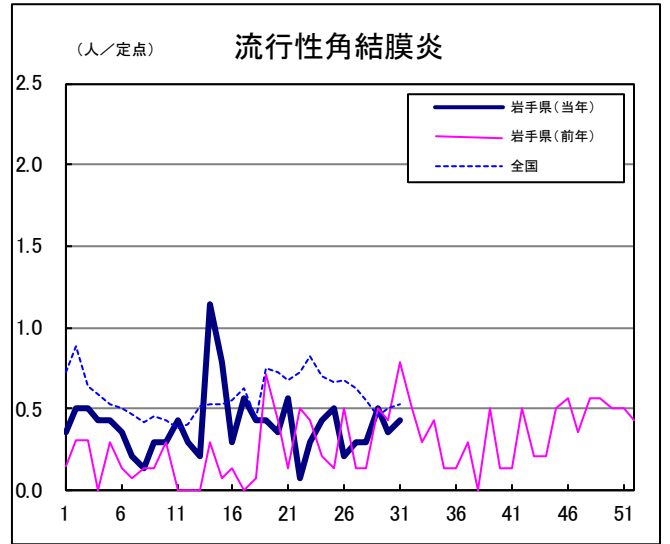
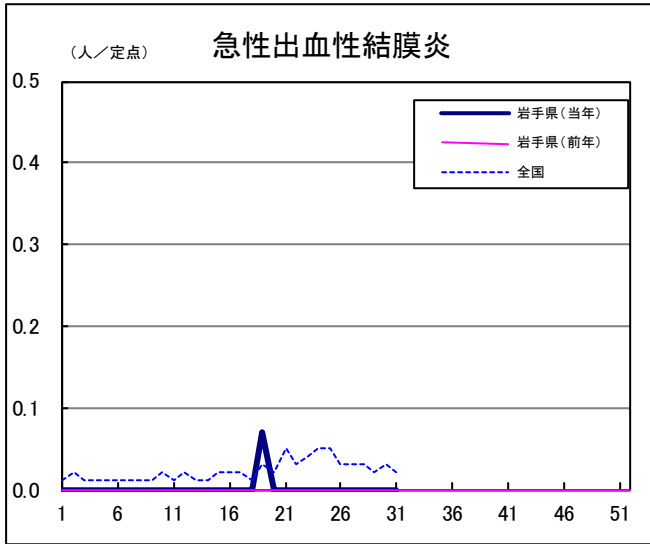
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	40	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第31週 令和6年8月9日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>